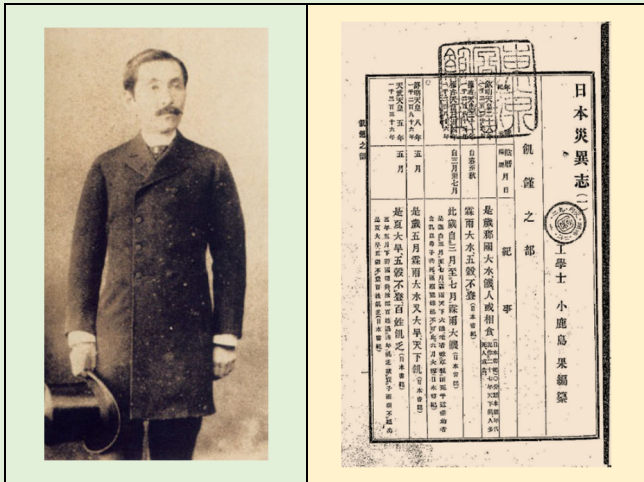


奥積雅彦（総務省統計研究研修所教官）

## 小鹿島果の著書にみる統計魂【その1】日本災異志

小鹿島 果 おがしま はたす  
(1857-1892)



【写真】：滝乃川学園 石井亮一・筆子記念館 提供

【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション

(<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/770752/15>)

旧大村藩出身。工部大学校（現在の東京大学工学部）で鉱山学を修め、明治13年（1880年）工部省を経て、同16年統計院、その後、会計検査院、農商務省に勤務。同25年結核により亡くなる。

著書に「日本食志 一名日本食品滋養及沿革説」（明治18年）、「日本災異志」（明治27年）などがある。

【参考資料】：国立公文書館デジタルアーカイブ（件名：会計検査院属小鹿島果農商務省技師試補二被任ノ件）、大村観光ナビ、滝乃川学園HP等

注：出生年については国立国会図書館サーチによる。ただ、前掲の「会計検査院属小鹿島果農商務省技師試補二被任ノ件」に所収の本人の履歴書では、出生年は文政2年（1855年）とされ、真偽は不明。

### 1 はじめに

統計図書館コラム特別編【No. S06】「統計の黎明期を支えた太政官（政表部門）・統計院の職員」の作成過程で、小鹿島果について調べる機会に恵まれ、彼の著作「日本災異志」に係るトピックスを調べてみましたので、紹介します。

### 2 日本災異志とは

日本災異志は、我が国における天変地異の記録。同書は、**序文**、**引用書目一覧**、**目次**、**本文**（13巻）と**おくがき**で構成され、本文は、飢饉・大風・火災・早魃（かんぱつ=干ばつ）・霖雨（りんう=幾日も降り続く雨）・洪水・疫癘（えきれい=疫病）・噴火・地震・海嘯（かいしやう=津波）・虫害（ちゆうがい=農作物や樹木などが害虫によって受ける損害のこと）・彗星の部の12巻と太陽内最大及最小黒点期表の合計13巻からなっています。彼の遺稿を基に明治27年（1894年）に出版されたものです。

国内の213種類の膨大な資料（古くは日本書紀）を引用書目として、災害の記録をとりまとめています。さらに、発生件数について50年ごとの構成比、月ごとの構成比や地域別の構成比などを算出しています。小鹿島果の統計院での経験に基づく統計魂が活きているように感じます。

※日本災異志の本文・別図（抜粋）は【別掲】参照

### 3-1 日本災異志の 序文 からわかったこと

- ・日本災異志の **序文** は、安川繁成\*（統計院時代の上司）が記したものの。⇒【資料1】参照  
\*安川繁成のプロフィールは、統計図書館コラム特別編【No. S06】参照
- ・ある日、僚友と天災を論じたのが発端となり、隣接する修史館（東大史料編纂所の前身）から史籍を借り、余暇に古来からの自然災害の史実を調査することになったこと。
- ・欧米出張の際、余暇に各国の災異の状況も調べたこと。
- ・関係者が遺稿の出版を企画し、出資したこと。

### 3-2 日本災異志の おくがき から分かったこと

- ・日本災異志の **おくがき** は、小鹿島果の妻筆子が記したもの。⇒【資料2】参照。
- ・冒頭の「袖に涕（なみだ）のかかるとき、…」から、夫（小鹿島果）が帰らぬ人となったことの悲しみが伝わってきます。そして、講学熱心な彼の在りし日の姿をうかがい知ることができます。
- ・工部大学校で鉱山学を修めた小鹿島果にとって、鉱山の管理、開発も所管する工部省は、自身の専門分野を活かすことができる場所。彼は卒業後、工部省に約三年在籍した統計院に奉職していますが、なぜ、統計院に移ったのか、単純に疑問がわきます。この **おくがき** の中ほどの文章からにその経緯を唆するくだりがあり、病弱な彼が鉱山に入ることはよくないと、ドクターストップがあったことが統計院に転じる契機となったことが分かりました。
- ・統計院の在籍は明治16年（1883年）からの2年間です。内閣制度創設に伴い、統計院は廃止となり彼は明治18年12月に非職（地位はそのまま、職務だけ免除されること）となりました。翌年2月、会計検査院に勤務することとなりました。つまり、統計院を去ったのは必ずしも本意ではなかった可能性も考えられます。会計検査院に転じたのは、当時、妻筆子の叔父（渡辺昇）が院長であった縁もあったかもしれません。その後、彼は、農商務省に転じますがこの部局に転じたのは、国立公文書館デジタルアーカイブからは分かりませんが、当時の官員録から鉱山局であることが分かりました。この **おくがき** でも会計検査院から鉱山局に転じたことが分かります。彼は鉱山と関わる仕事をあきらめることができなかったのかもしれない。

### 4 おわりに

本稿で紹介した日本災異志をインターネットで検索したところ次のことが分かり、同書は、今後とも有用な史料であることをうかがい知ることができました。

- ・気象百年史で名著と記される  
気象庁「気象百年史 本編」（1975年）において、2頁で「明治27年、小鹿島果は名著「日本災異誌」を刊行した。」（原文ママ）とあり、10頁（気象百年史略年表の明治27年の気象史項目）で「小鹿島果「日本災異志」刊。」（原文ママ）と記されています。  
※国立国会図書館デジタルコレクション（図書館/個人送信限定）で閲覧可能
- ・元・気象庁長官の寄稿で引用  
元・気象庁長官高橋浩一郎の寄稿「太陽活動と流行病」（日本気象協会「気象」1990-07）所収において、日本の疫病の大流行年については、小鹿島果「日本災異志」にのっている旨が紹介されています。  
※国立国会図書館デジタルコレクション（図書館/個人送信限定）で閲覧可能
- ・復刻版も刊行  
国立国会図書館オンライン等で検索したところ、1967年、1973年、1982年に復刻版が刊行されていました。
- ・大学入試問題にも  
2021年の香川大学経済学部の編入試験（小論文）で日本災異志を引用した文献を基に作成した問題が出題されました。

■日本災異志序



【画像】 国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/770752/7>)

翻刻	読み下し
<p>災異志序</p> <p>察變於幾先。防禍於未萌。智者之事也。然至夫天災地變之來。常出于急遽不慮。是以被害殊慘。其推測而予防焉。雖智者甚難之。自統計之興也。學者欲徵古今災異之跡。推註以知來。</p> <p>有稍得端緒者。要在多彙事實而精窮矣。余曩者承乏統計院幹事。小鹿島工學士適為僚友。一日論及災異之事。學士奮請彙事實。供精窮之用。乃委以詳叙本邦。古來災異之狀。編為書。</p> <p>使二三同僚佐之。學士拮据從事。積年始脫稿。此篇即是也。蒐輯該博。考証正確。加以用意周到。或附圖。或施畫線。彩色別之。使讀者瞭然易曉。當時。院衙與修史館隣接。尤得借書之便。是以搜索備至。即此書之所以能詳悉而靡遺也。學士素弱質。</p> <p>而篤學勵精。常扶病撰著。其既行于世者亦多。此書甫成。未及刊行。會統計院廢。學士居家。</p> <p>猶探求事之關災異者。訂正增補。歷久不倦。明治二十季。吾會計検査院長子爵渡邊君。奉命赴歐米諸國也。學士亦在從行中。本務之余暇。博搜各國災異之事迹。有所資參考。惜哉。客歲秋病發。臥蓐數月。終溘然長逝矣。吁嗟天假之年。則其所成就。將有更偉且大者。豈可不悲乎。</p> <p>頃者故旧同學諸子。以此書學士之所尤注勢力。相謀捐貲印刷。</p> <p>徵余叙。余與學士交久。且深感諸子之厚友誼。乃叙此書編纂之顛末。與學士篤學勵精異人之狀。書卷首。以表追悼之情云</p> <p>明治癸巳六月 從四位勲三等安川繁成識 學習院助教小柴包之書</p>	<p>災異志序</p> <p>變を幾先に察し、禍を未萌(みほづ=未発)に防ぐは、智者の事(しわざ)なり。然るに、夫(それ)天災地變の來るに至っては常に急遽不慮に出、是以(これをもつて)被害殊慘。其の推測而して予防は智者と雖も(いえども)甚だ之れ難し。自(おのずと)統計の興るなり(=統計が盛んになる)。學者、古今災異の跡を徵するを欲し、推註(=推して解き明かすこと)、以て知り來たる。</p> <p>稍(やや)端緒を得ること有は、多くの事實を彙め(あつめ)、而して精窮するに在るを要す。余(=安川繁成)、曩者(どうしや=さきに)統計院幹事を承乏(しょうぼう=任官)し、小鹿島工學士と僚友(たろ)に適(かな)う*。一日(=ある日)論じ災異の事に及ぶ。學士奮いて、事實を彙め(あつめ)供に之れを精窮する用を請う。乃(すなわち)本邦古來災異の狀を詳叙するを以て、編じて一書を為すを委ねる。</p> <p>二三の同僚を之れに佐け(たすけ)使む(しむ)。學士拮据(きつきよ=懸命に働く)従事す。積年、始めて脱稿す。此の篇、即ち是なり。蒐輯(しゅうしゅう=取り集めて編集する)該博(がいぱく=広く通じている)。考証正確。加以(しかのみならず)用意周到。或いは図を附し、或いは画線を施し、彩色之れを別にし、読者をして瞭然易曉(=簡単)せしむ。当時、院衙と修史館は隣接し。尤も借書の便を得。是以(これをもちつて)搜索備至(びし=行き届く)。即ち、此の書の所以(ゆえん)、能(よ)く詳悉にして遺(のこ)すところ靡(なき)なり。學士の素、弱質。</p> <p>而して篤學勵精。常に病を扶け(たすけ)(=病をおして)著を撰す。其の既に世に行う者また多し。此の書、甫(はじめて)成る。未だ刊行に及ばず。統計院の廢すに會し。學士、居家(きよか=家にいる)す**。</p> <p>猶(なお)事之れを探究し、災異に関するものを訂正増補。歷久(れききゅう=長年)倦(たゆ)まず。明治二十季(=年)。吾が會計検査院長子爵渡邊君***は、命を奉じ歐米諸國に赴く也。學士もまた從行中に在り。本務之余暇、各國災異の事迹(=事跡)を博搜(はくそう=広く探して調べる)し、参考に資する所有り。惜しむかな、客歲(かくさい=昨年)の秋、病發し、臥蓐(がじよく=病床につく)すること數月。終に(ついに)溘然(こうぜん=はやかに)長逝(ちようせい=永眠)す。吁嗟(あゝ)天假(あ)の年。則ち其の成就する所。將(まさに)偉且つ大を更む(あらたむ)もの有り。豈(あに)悲しまざるべきや。</p> <p>頃者(けいしや=この頃)故旧(こきゅう=古いなじみ)、同學の諸子、此の書を學士の尤も勢力を注ぐ所を以て、相謀(はか)り貲(し=資力)を捐(す=寄付)て印刷。</p> <p>余の叙(=序文)を徵(ちよう=求める)す。余と學士の交り久し。且つ深く諸子の厚き友誼に感ず。乃ち、此の書編纂の顛末を叙す(=述べる)。學士の篤學勵精と異人(優れた人)の狀を卷首に書し、以て追悼の情を表すと云う。</p> <p>明治癸巳(みずのとみ)(=明治二十六年)六月 從四位勲三等安川繁成識 學習院助教小柴包之書</p>

\*安川繁成は明治14年11月~18年12月まで統計院幹事(奏任官)。小鹿島果は明治16年3月~18年12月まで統計院に在籍(判任官、四等属)

\*\*明治18年12月の統計院廢止に伴い、小鹿島果は非職となり、翌年2月會計検査院に勤務になり、安川繁成も非職を経て同年10月會計検査院部長に。

\*\*\*小鹿島果の妻筆子の叔父

日本災異誌おくがき

いとくおちかきつて  
 は、なかくにほすよきな  
 はや一年あつたにせうか  
 彼の友なり君たちの  
 亡夫の遺稿よ、日本災異誌とてか書かれたる  
 を、永くおぼえし、早に世にあらせむ  
 思ひかまへて、夫の遺稿よ、夫の遺稿よ、夫の遺稿よ

本意ならずも、草稿ながら、打果ねおせぬ

おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて

日本災異誌おくがき

おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて

いなきしか、数多(あまた)の君たちのかばかり

あつた、あつた、あつた、あつた、あつた  
 あつた、あつた、あつた、あつた、あつた  
 あつた、あつた、あつた、あつた、あつた  
 あつた、あつた、あつた、あつた、あつた

明治二十六年十二月 筆名 〇〇〇

おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて

おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて  
 おちかきつて、おちかきつて、おちかきつて

【画像】国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/770752/441>) を元に翻刻文等(青字)を添えたもの(翻刻に際しては、一番ヶ瀬康子、河尾豊司、津曲裕次 編「無名の人 石井筆子」も参考に確認。)

【参考情報】妻筆子については、統計図書館コラム特別編【No. S06】の一口メモで触れたところですが、プロフィール等については次のサイトを参照願います。

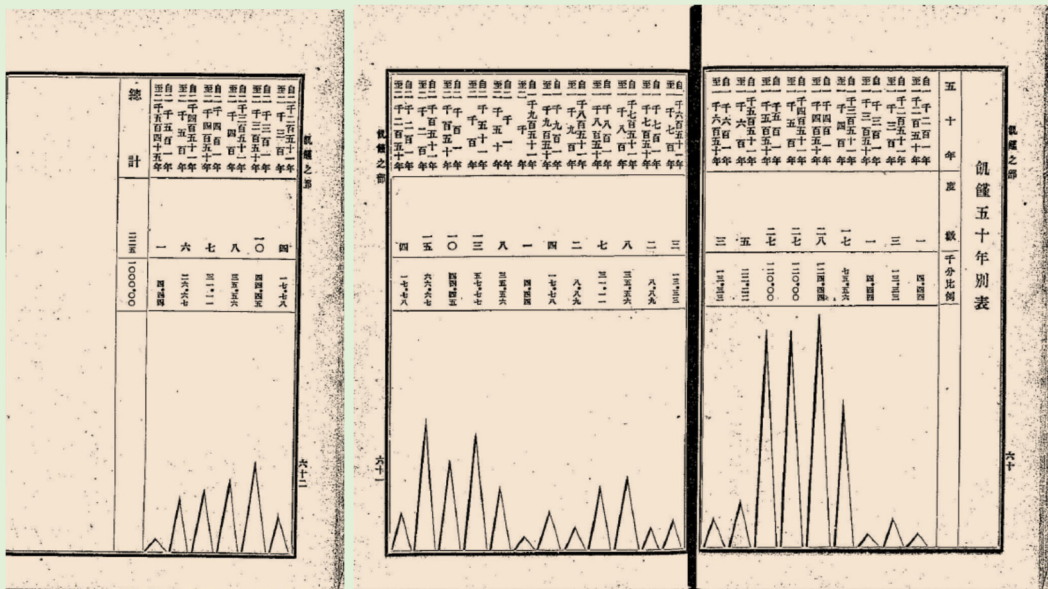
- ・滝乃川学園HP (沿革) (<https://www.takinogawagakuen.jp/guide/timeline/>)
- ・長崎県大村市観光情報サイト>歴史散策>偉人巡り (石井筆子) (<https://www.e-oomura.jp/sansaku/iijin>)

第一巻 飢饉之部（抜粋）

飢饉之部		飢饉之部		飢饉之部	
年	月	年	月	年	月
文和元年	十月	是歲	是歲	是歲	五月
大寶二年	十月	是歲	八月	是歲	五月
...	...	...	...	...	...

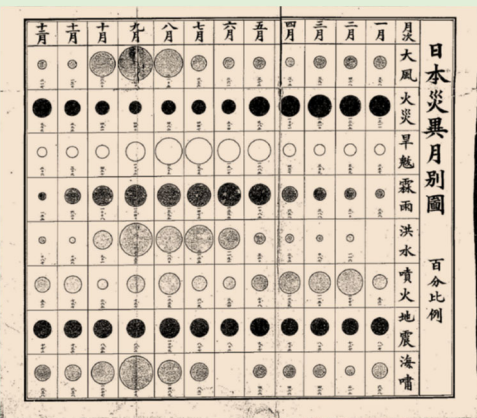
【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/770752/15>)

第一巻 飢饉五十年別表



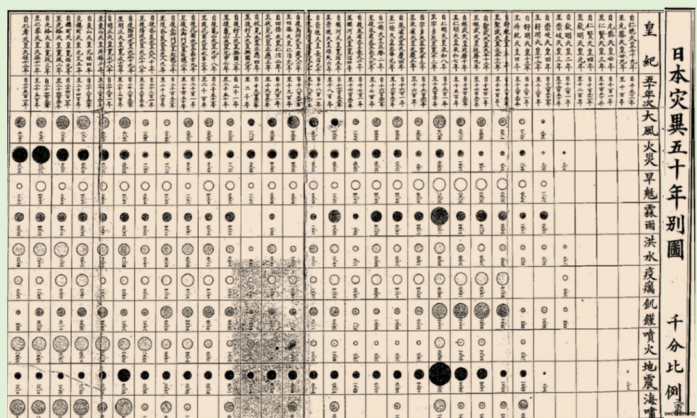
【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/770752/45>)

日本災異月別図



【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/770752/6>)

日本災異五十年別圖



【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/770752/1>)

【利用上の注意】 年次は皇紀で表記されています。

【参考情報】 日本災異志のカラー版は、国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1852021>) で閲覧可能です (※国立国会図書館/図書館送信参加館限定)。